

## 5-3. 生涯学習の推進

### (1) 現況と課題

本町では、平成13年3月に高根沢町生涯学習推進計画（元気あつぷ計画）を策定し、基本コンセプト「誰もが、いつでも、どこでも容易に学習できる環境づくり」を目標に掲げ、住民のニーズに応えた学習内容や学習機会を提供するなど、生涯学習の充実に努めてきました。

今後は町民一人ひとりが学びや活動によって、自らの課題を自らの手で解決する力を高めていけるよう、生涯学習情報の提供や教室・講座の開設など、生涯学習のさらなる推進が必要となっています。また、情報通信技術を活用し、より手軽に学習できる仕組みを整えるとともに、町民と一体となった生涯学習の推進が必要不可欠となっています。

また、ボランティア団体やNPO法人\*への支援を拡大して、町民の主体的な活動を支援することや、地域交流センターを拠点とした講座開催による地域教育力の向上、さらには出かける国際交流から受け入れる国際交流への転換などが課題となっています。

### (2) 5年間の政策目標

- ①町民自らの能力開発と自己実現を応援します。
- ②生涯学習の環境整備を進め、まちづくりや地域づくりを活性化します。
- ③体験活動、家庭教育を積極的に支援します。

### (3) 施策

#### 5-3-1. 地域協働団体等の育成と支援

生涯学習に関するボランティア活動や、NPO法人\*等の活動に対する支援を充実させるとともに、生涯学習の充実に目指して、地域協働団体の育成と支援に努めます。

指標	平成16年度	平成22年度
新規の育成・支援団体数 (単位：団体)	7団体	50団体

#### 【事業】

- 地域協働団体等の育成と支援
  - └ 地域協働団体等支援事業費
  - └ 地域協働団体等育成事業費

#### 【関連施策】

- 2-2-4 高齢者の生活支援
- 3-1-3 緑地保全活動の推進
- 3-3-1 防災体制の強化
- 5-2-1 自然・体験活動への支援
- 5-4-1 住民参画による文化イベントの運営
- 5-5-3 総合型地域スポーツクラブの設立支援
- 6-1-2 住民協働推進計画の策定と運用

### 5-3-2. 体験・交流活動の充実

ボランティア団体やNPO法人\*と連携し、生涯学習の一環として実施する自然体験、体験活動、交流活動を充実させ、参加者の拡大を図ります。

指標	平成 16 年度	平成 22 年度
①自然体験年間参加者数（全体） （単位：人）	1,000人	3,000人
②体験活動年間参加者数(全体) （単位：人）	44,849人	60,000人
③交流活動年間参加者数（全体） （単位：人）	1,740人	3,000人

#### 【事業】

○体験・交流活動の充実

- ┆ ネットワーク・他部署と連携したプログラム開発事業費
- ┆ 体験・交流活動支援事業費

#### 【関連施策】

- 2-1-1 正しい食生活づくり      2-2-3 高齢者の生きがい支援      2-3-3 障害者元気プランの策定と運用
- 2-4-2「居場所づくり」あそぼうねっとプロジェクト      2-4-3 食育教育の推進
- 4-1-1 循環型農業への取組み推進      4-1-4 農村地域の再生と活力ある農村の創造

### 5-3-3. 生涯学習情報システムの構築

インターネットや携帯電話等を活用して生涯学習情報システムを構築し、生涯学習情報の充実、施設予約や料金支払いの省力化などを実現し、参加したい講座や教室を容易に受講できる仕組みを整えます。導入計画は、平成 18 年度協議、平成 19 年度にはソフトを開発し、平成 20 年度に導入します。

### 5-3-4. 地域コミュニティ（小学校区単位）による地域教育力の活用

既存の公共施設を有効活用し、地域交流センター（市民活動支援センター・生涯学習センター・地域公民館）を小学校区単位に（5 年後に 2 箇所・10 年後に 6 箇所）新設します。この施設を地区の拠点として利用して、地域教育力の活用を図ります。

### 5-3-5. 読書活動推進とボランティア育成

生涯学習の支援の柱である図書資料を充実させて、自己学習の基本である読書を促進するとともに、図書館ボランティアを組織し、読書活動の推進と図書館のサービス向上を図る体制を整えます。

#### **(4) 効率化目標**

##### ①経費削減

講座・教室の講師に地域の人材を積極的に活用することによって、コストを削減します。

指標	平成 16 年度	平成 22 年度
講座・教室における地域の人材活用割合（地域の先生/教室講座数） （単位：％）	20％	70％

#### **(5) サービス向上目標**

- ・様々な媒体を使って生涯学習の大切さや楽しさ等をPRし、生涯学習参加率70%（対全町民）を目標とします。
- ・インターネットや携帯電話等を利用して、生涯学習情報の取得、施設予約が誰でも容易に行えるようにします。
- ・民間事業者が開催していない、若しくは補えない部分（不採算）の需要に対し、生涯学習に参加できるネットワークを活用したプログラムを用意します。（例：英語会話の受講希望者は多く、民間事業者でも教室を開催しています。しかし、ポルトガル語などは開催機会が少ない現状にあるため、町国際交流協会と連携し在住ブラジル人が講師になり、学習の場を提供します。）
- ・図書館の開館日数を増やし、利用者の利便を図ります。（図書館中央館の第三日曜日を開館）